

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間にて入居者が地域の一員として生活をして行けるようサービスの意義を確認している。		地域の中で喜びと安心を持ちその人らしく生きていくことに支援をしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が出入りしてる場所に掲示したり朝夕の申し送り時に理念・職員の心構えを確認している。		職員間で話し合い具体的なケアについての介護の統一を計っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の訪問時や家族会の開催時に伝えている。ハイム便り等の活用し町内会行事への参加時にも伝えている。		家族会や面会等に来れない家族には広報やハイム便りにて伝えている又遠方の家族には電話等で伝えている。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物に出かけた際、挨拶を交わしたりお話をしたりしている。又併設にボランティアに来所した町内会の婦人部の皆さんに声をかけている。		ホームの隣近所は併設施設のため通りすがりに声をかけていただいている。又近くに保育園があるため園児の散歩中に声をかけていただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域町内会の行事等への参加や又ホームでの行事に参加していただいている。		今後も行事等に参加していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設施設を通じ随時紹介説明をしている。人材育成の貢献として実習生の受け入れも行っている。	○	今後は町内会の婦人部の方々に介護講習等を実施していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で各自自己評価に取り組んでいる・外部評価の結果は職員会議やホーム内に掲げている。		評価で出された課題には改善計画を立て、その実施に取り組んで生きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時にその都度検討事項等・意見の交換を行っている。		継続しながら地域密着に重ねて生きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年二回の家族会が行われているが開催時参加要請する。小佐の地域生活応援センターの保健婦さん来訪。		小佐野地区生活応援センターへのハイム便りを配布し活用や訪問を期待したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用している利用者がおり随時アドバイス、支援を行っている。必要時職員に理解を深める様説明をしている。		入居者が利用している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会等実施している。高齢者虐待防止法について理解等浸透するよう取り組みを行っている。		新聞やテレビ報道等で起こっていることなどをミーティングしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居説明時、利用料金、リスク、重度化、医療連携体制等、具体的に説明をしている。</p>	<p>説明して同意書等にサインをいただいている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員が年3回来訪し利用者の意見等聞いていただき参考にしている。日頃の生活の中から利用者の要望や意見を出してもらおう機会を活かしている。</p>	<p>利用者の相談になっていただき参考にしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月居室担当職員がハイム便りと称して送っている。家計簿は月末に計算して写しを送りその後家族より確認印を頂いている。</p>	<p>家族来訪時には利用者の生活ぶりや健康状態等、又体調不良の時病院受診の際連絡と取っている。家族の面会を増やして行きたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族会等で意見を出して頂くよう説明はしているが苦情は相談等は管理者が窓口になっている。又岩手県グループホーム協会や釜石市福祉事務所等にも申し立てして頂くよう入居時に説明をしている。</p>	<p>家族会等で意見を出せる様な仕組みを考え行きたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議を利用したり日頃から職員間のコミュニケーションを図れるようこころがけている。</p>	<p>管理者は常に職員の提案や意見をその都度聞き意見等の反映に心がけている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>起床時、就寝時、入浴、外出等利用者の自由な暮らしを支えられる様職員の体制を整えているが職員数が限られているため十分とはいえないがその都度勤務調整を行っている。</p>	<p>十分とはいえないが入居者に対応できるよう勤務に配慮している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には職員を固定化し顔馴染みの職員によるケアを心がけている。異動が決まり配属までの間何度も顔を出してもらっている。</p>	<p>利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制をとって生きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>市の学習会や研修会の参加・ハイム内での研修会や併設施設での研修会等に参加をしている。</p>	<p>定期的なハイム内での日々の体験を基にした研修の開催。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の研修会やグループホーム協会の研修会を通して質の向上に心がけている。他のグループホームへの見学等をシェアに活かしている。</p>	<p>各研修会、勉強会に参加の機会を多くしてサービスケアの質の向上に反映していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人の職員会や併設の職員会の行事で色々な催しや懇親会等に参加し気分転換出来る様に配慮している。</p>	<p>法人では年3回の行事がありそれぞれに必ず参加する様配慮している。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の健康状態や勤務状態等も常に把握している。又介護福祉士の資格に取り組んでいる職員に習得の向上に努めている。</p>	<p>未資格職員は有資格職員よりアドバイスを受けたり受験までのあり方等の指導を受けている。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初めに家族の方や施設の相談員より現在の状況で困っている事等の相談を受け利用に対しての説明を行い、次に本人と面談をして、職員や入居者と一緒にお茶を飲んだりお喋りしたりして、雰囲気作りに努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>困っている事はある程度入居する事で解消できるが入居させて貰えるかどうか不安なことでゆっくりと話し合い又家族の話を聴き受け止めて上げられるよう対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際ホームで対応出来ない時や満所の為受け入れで着ない時は他のホームや施設等、在宅支援センター等を紹介する様対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを利用者や家族が見学したり、入居者とお話したり馴染めるよう対応している。		本人が納得出来る様、事前に見学等の機会を増やしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側される側という意識を持たずにお互いに協力しながら和やかな生活ができる様配慮する。		日々のケアの中で言葉や表情を観察、確認し和やかな毎日を過ごせるよう支援している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝えることで本人を支えていくための協力関係が築いて行ける様努力している。		本人をこれまでの暮らしができる様務めているも家族と本人の思いが徐々に離れてしまっている現実がある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族の状況を見ながら外出や外泊等、家族と一緒に過ごすことを勧めたり来訪や行事参加を誘っている。		本人と家族の潤滑油になるよう心がけている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っている美容院の利用や友人宅へ遊びに行ったり出来る様に働きかけている。		現に美容院には家族の協力で出かけている。その帰りに馴染みの友人と再会して来ている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士でその日の状態や感情で変化があるため注意深く見守るようにしている。毎日のお茶、食事の時間は職員も一緒に会話をし利用者同士の関係が円満になる様配慮している。		利用者同士の仲のよし悪しに配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ異動し方にも利用者と一緒に遊びに行ったりしている。		ホーム近くの施設に移動した元入居者の所へ出かけて会って来ている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。本人にとっての最良は何かを家族と一緒に検討している。		利用者がその人らしく暮らし続ける様理解する為話あっている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で本人から、これまでの暮らしぶりを聴き取るようにしている。又入居時に家族よりバックグラウンド用紙に記載して頂き又家族が来訪時聴き取りしている。		独居が長くて家族からの聞き取りが出来ないときは日常生活の中から汲み取ったり会話の中から把握して対応している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の中から利用者一人一人の生活リズムを理解している。毎日の生活の中で出来ること、出来ないことに注目しそれを生かすように留意している。		出来ること、出来ないこと等把握しているもその日によって変化が生じている場合もある。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で本人や家族の思いや意見を聞き反映させるようにしている。自分らしく暮らせる様介護計画の作成に留意している。		介護計画を立てる際、利用者一人一人に沿った個別的、具体的に作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態が変化した際にはその都度検討見直しを行っている。状況、状態の変化の度本人や家族に説明し見直しえを行っている。		本人及び家族の状況変化に応じて計画を見直し家族にその旨報告している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事、水分、排泄等身体状況及び日々の暮らしや言葉を記録している。すべての職員が確認出来る様にし勤務時間開始前の確認を義務付けている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の健康状態等に応じて通院等必要な支援を行っている。		個々の満足を得られる様本人の状態に応じたケアを行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らして行く事が出来る様町内にある警察や消防、小佐野地区生活応援センター等に広報や楽山会の集まりの時支援を協力していただく様口頭にてお願いしている。町内会の婦人部、ボランティアの方々にも協力して行司等に参加していただいている。		お化粧品クラブには月一回行って貰い入居者の皆さんはきれいになっております。婦人部の皆さんは誕生会に参加され入居者と一緒に歌を歌ったり物語を読み聞かせたりして皆さん楽しんでます
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	骨折した入居者が入院しないでホームで暮らしていくのに安静が必要のためじょく創防止のためサービス事業者と話し合い適したベットマットをさがしていただいた。		1ヶ月以上使用しているがじょく創も出来ずに居る。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を活用している。時々専門員とも連絡を取り合っている。地域包括センターは認定調査等にアドバイスを受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には併設の医療機関に必要時受診を行っている。		本人や家族の希望を聞き職員により受診・通院を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月1回の受診や相談を行っている。		これからも同様行っていきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約に基づき日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を行ってもらっている。介護職員とステーションの看護師とは気軽に相談出来る関係が出来ている。		同一法人の関係で協力体制が計られている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し頻繁に職員が見舞うように努めている。又家族とも情報交換しながら回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		早期退院になる様早期に治療を心がけている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に終末期ケアに対する同意を口頭にて説明している。状態の変化がある度に家族に説明し、併設の医療機関の医師等にも話し合いを行っている。	○	終末期ケアに対する同意書の作成、同意の確認を行う。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在重度化になっている入居者もあり日々より良く暮して行ける様出来ることをより多く見つけ出来ないことは訪問看護ステーションの看護師とも連絡を取り合って支援している。		重度化から終末期の変化には現在ホームでは検討をしているが家族は出来るだけ病院での対応との意見も出されている為今後話し合いをしていきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設に移動された際に情報提供や移動先に申し送り等を行っている。又家族には移動なることは事前に話し合っていることで納得の上で行っている。退所後も職員は入居者と一緒に面会に行ったり施設の職員にアドバイス等を行っている。		併設の保健施設へ入所された家族がホームにも寄って頂き安心されていたようです。これからも見守って行きたいです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>入居者一人一人認知症に差があるので個人の誇りやプライバシーを損ねない様対応の徹底を行っている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>起床時間、掃除、就寝時間又は散歩等基本的な時間はあるも特に強制せず一人一人のペースにて行っている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>お化粧品クラブや高校生によるネイルケア等もして頂いている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>入居者の一人一人の出来る事を見極め無理せず調理盛り付け跡片づけ等行っている。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>現在タバコお酒を希望されている方はないがこれからはタバコについては職員の監視の下で行わせたいと思っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握しトイレ誘導している。本人のプライドを尊重して下着にナフキンや尿とりパットを着け使用している。		他入居者に分からないよう行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴していただいている。入浴の間隔が長くなるよう配慮し又職員の配置も考慮し無理せず行っている。		入居者の高齢化に伴い身体能力の低下に考慮し見守り介助を要している。又本人の希望が必ずしも優先ではなく職員の判断を要している。(家族の希望)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活のリズムを整える様努めている。又一人一人の体調、表情、希望を考慮し支援している。一人一人の様子を見温かい飲み物や添え寝等必要時行っている。		独居生活が長かった入居者は生活習慣が把握出来ない所やどのような生活だったのかつかみとるまで大変である。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、畑仕事、ドライブ、外食等入居者と相談しながら行っている。		入居者一人一人の楽しみや役割を見つけ支援している。入居者一人一人の習慣、希望等の把握をして支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力、理解を得、少額のお金を持っている入居者も居る。ハイムにて管理している入居者も外出時買い物食代等支払って頂けるようお金を手渡すのを工夫している。		最近では釜石大観音でのお守りの買い物をしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や入居者の体調に応じ日常的に散歩、ドライブ、外食等行っている。		天気や季節を感じてもらえる様積極的に戸外へ出ている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人の希望に添う様家族と相談し協力を得ている。		家族の協力で毎日行きたいと思っている実家につれて行ってもらうことに計画を立てている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望、状況に応じて日常的に電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		家族が遠方のため電話をかけたいたりいただいたりして電話の子機を使用して自室でお話をしていただいている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来訪出来る様特に訪問時間等定めていない。		施錠している時はインターホンにて対応している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの申し送り時身体拘束が行われていないか等点検している。		昨年10月に研修会を行っており今年度も10月に勉強会を行う予定です。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな場合さりげなく声をかけたり一緒に歩いたり安全に配慮し自由な暮らしができる様見守りをしている。		利用者一人一人の外出の傾向をつかみ対応し職員間の連携を蜜にとっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事務室は奥まった所にあり事務作業を行うも利用者と同じ空間で行い全員の状況を把握する様努めている。夜間は時間を決め巡視する以外はすぐ対応出来るよう安全に配慮している。		常に職員が入居者の目に入る所に居る・又台所に居ても見えて入居者の存在が確認出来ている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人一人の状況に照らしながら対応している。		お部屋の掃除時針を見つけて室内を探したら見つかりすぐ家族に連絡し家に持ち帰っていただきました。ホームでは職員と一緒に使うことになっており家族にその旨お話いたしました。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し職員の共有認識を図っている。事故発生した場合速やかに報告書を作成し予防対策について検討し家族への報告を行っている。		月1回法人による危機管理委員会に管理者が出席して報告をしている。その際他の職種の方々よりアドバイスを頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループホームの研修会や消防署の協力を得て救急手当や蘇生術研修を実施している。夜勤時の対応についてはマニュアルに沿って行っている。		昨年11月に勉強会が行われていたが今年も予定に入れている
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域防災相互応援協力協定書を基に町内会に協力を呼びかけている。定期的に消防署の協力を得て各訓練を行っている。	○	ホーム内では年に数回入居者と一緒に訓練をしている。又併設施設での訓練にも定期的に参加している。次回には町内会の参加協力してもらう予定
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて家族に定期的に連絡説明している。利用者一人一人のリスクを具体的に職員が理解し対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の普段の状況を職員は把握しており毎日バイタルチェックを行い記録をつけている。状況変化時には直ちに訪問看護ステーションに連絡を取り、管理者に報告し必要時、病院に受診している。		早期発見に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個別に記録し管理している。内服時職員が一人一人確認し内服している。手渡ししても口に入れるまで見届けている。自力で服用出来ない入居者には口腔内にて対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の食材の工夫や運動を働きかけ自然な排便が出来るよう取り組んでいる。		毎日の日課に健康体操を取り入れている中でおなか周りの運動等を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けや個別に見守り、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。口腔ケアの重要性を職員内で研修し理解している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容を書類に記録にし一日の摂取量をおおまかに把握し定期的に栄養士にアドバイスを頂いている。		利用者の嗜好を考慮し献立に取り入れ栄養バランスにも配慮している。定期的に管理栄養士(併設の栄養士)がチェックしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内で起こり得る感染症についてマニュアル作成し勉強会をしたり講習会に参加し予防対策に努めている。入居者、職員共に予防接種を受けている。		全員の手洗い励行している。入浴時に皮膚の観察等又洗濯等もまめに行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や洗い桶は毎晩漂白剤漬け、布巾等は食事終了時その都度交換し洗濯をしている。調理器具、冷蔵庫の点検、食材の管理等清潔衛生を保つ様職員間で決め実行している。		食中毒の研修会に参加し他の職員に資料を渡し再確認している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口にベンチやプランター等を置いてある。		周囲か併設の施設の為普通の家の作りでないため玄関に車を駐車している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事や食事等を意識的に採り入れている。居間の飾り付けや家具の配置は利用者が心地良く過ごせるよう考慮している。		共同生活空間は利用者にとって不快にならない様家具の配置等を考慮している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のホールや廊下にテーブルや椅子を置き一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には写真や馴染みの家具や物を置いてある。		各居室は利用者の心地良さに配慮し職員がその人らしく過ごせる様支援している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日常的に空気の入替えに配慮している。 外気との温度差がある時は利用者の様子を見ながら調整をしている。		室内にも換気扇が付けられて常時点けている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に危険防止に留意し安全確保と自立への配慮をしている。		食事時のテーブル席等に居室より出やすくしたり席に着き易くその都度入居者に説明しながら変更している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状態を見極め状況にあわせた環境整備に努めている。 本人にとってどこまで出来るかを職員間で話し落ち着いた暮らしが出来る様配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や畑を作り利用者が楽しみながら活動出来る様な環境を作っている。玄関先にベンチを置いて日常的日向ぼっこしたり涼んだりしている。		玄関先は併設の施設の馴染みの職員の出入りの玄関があるため職員より声をかけていただいている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)